

時態成分“在”と“正”の意味と論理

青 木 萌

Abstract : This paper explores the meanings of “zai (在)” and “zheng (正)” which are regarded as a word expressing an aspect in Mandarin Chinese. In ‘zai’ sentences a ‘zai’ is regarded as ‘a word consisting of a number of events’. In ‘zheng’ sentences a ‘zheng’ is regarded as a word which ‘implicates a number of events’. This paper mainly uses set-theory and quantifiers to analyse the ‘zai’ and ‘zheng’ sentences.

Keywords : modifiers “zai (在)” and “zheng (正)”, manner adverbials, existential-quantifier, universal-quantifier

要旨

本研究は論理的な観点から時態副詞の“在”と“正”が表す意味役割を考察し、両成分の差異を明らかにした。在”は[複数の出来事存在]の意味を、“正”は[複数の出来事の包括]の意を示すと考える。主たる考察方法は、集合論(set theory)、全称量化詞(universal-quantifier)、存在量化詞(existential-quantifier)を運用した。

キーワード : 時態成分“在”と“正”, 様態表示句, 存在量化詞, 全称量化詞

0. はじめに

現代中国語における時態副詞の“在”と“正”は、口語、書面語を問わず使用頻度の高い成分である。しかし両成分に対する解釈は各研究者によって異なり、“在”を[進行]や[持続]と見なす一方で、“正”も[進行]や[持続]といった表現を用いて解されることが多く、適切な定義がなさ

れていない状況にある。¹しかも“在”と“正”は時として一つの文において共起するため、両成分の意味役割を明確に定めることは容易ではない。そこで本稿は論理的な観点から“在”、“正”が果たす意味役割について考察し、“在”は〔複数の出来事存在〕の意味を、そして“正”は〔複数の出来事包括〕の意を表すということを提示する。第一章ではまず“在”が〔複数の出来事存在〕の意を示し、かつ“在”は存在量化詞によって解析しえることを証明する。

1. “在”の解析

本章では以下八名の研究者による記述を取り上げて、副詞の“在”がどのような意味を表すのかを確認することにしたい。紙幅に限りがあるので下記の如く簡潔にまとめる。

表一 〔八名の研究者による副詞“在”の解釈〕

研究者	“在”が表す意味
1. 潘文娛 (1980 : 44-45)	動作が続いている、或いは進行中。
2. 北京大学中文系 1955・1957 级语言班编 (1982 : 620)	動作行為が正に進行の状態。
3. 杉村博文 (1994 : 104)	時間の流れを感じさせる行為や状況の継続・進行。
4. 龚千炎 (1995 : 89)	進行の状態。
5. 刘月华等 (2001 : 396)	動作の進行。
6. 张斌編 (2001 : 683)	動作行為や性質の状態が進行、或いは持続中。
7. 卢福波 (2010 : 142)	現在、或いはある時点ある時間幅における動作の進行性。
8. 袁莉容等 (2010 : 169)	進行の意味を表す。動作の持続に幅があることを強調する。時間幅を有する表現。

上の表一から、各研究者はいずれも“在”に対して〔進行〕という言葉を用いて解釈していることが分かる。そこでこれらの記述をもとに、本研

究では“在”の〔進行〕の意をより厳密に〔複数の出来事の存在〕の意を表す、と見なす。²そこで以下実例を用いて“在”が〔複数の出来事の存在〕の意を表すことを明らかにする。用例は全部で五つある。まず(1)の例を見られたい。³

(1) A：妈妈，你回来了！

B：冬冬，你怎么这么晚还不睡啊？。

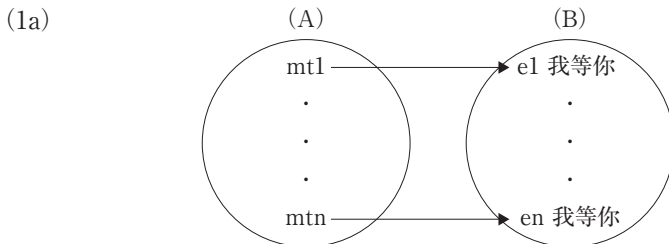
A：我在等你啊，准备跟你说晚安。(テレビドラマ《爱的创可贴》第13話)

(A：「ママ！」)

(B：「冬冬，こんな遅いのにまだ寝てないの？」)

(A：「ママを待っていたんだよ，お休みを言おうと思ってね。」)

この(1)では“我在等你”が問題となる箇所である。ここで生起する“在”は〔複数の出来事の存在〕の意を示していると考えられる。それは“我等你”が〔持続〕の出来事を構成しているからである。そしてこの“我等你”が〔持続〕しえるのは、動詞の“等”自体が〔持続〕の意味を有しているためである。(1)の用例の引用先であるドラマ《爱的创可贴》によると、この場面は、息子が母親の仕事帰りを夜遅くまで待っているところである。この事実は(1)の“你怎么这么晚还不睡啊”と“准备跟你说晚安”の文からも理解することができる。従って、発話者である息子の概念では“我等你”という出来事が長い間続いたが故に、複数の“我等你”を存在させることができると考えられるので、“我在等你”は次のような集合を構成することができる。



この(1a)は二つの集合によって構成されている。これらの集合は複数の要素 (element) によって構成されている。左の集合を (A)，右の集合を

(B) とする。(A) の集合はいずれも “mt” という要素が含まれている。この “mt” はある一つの様態的な時間点を示している。従って様態の ‘manner’ と時間の ‘time’ の頭文字として “mt” と記すことにする。次に (B) を見られたい。この集合には出来事 (event) が要素として存在している。従って, “event” の頭文字の “e” を用いて表すことにする。

今度は (A) から (B) に向かって延びる矢印について説明しよう。この矢印は (A) から (B) への写像 (mapping) を意味する。

さてここでもう一度(1a)の図全体を見られたい。“mt” が一つ以上 “我等你” へ写像されている。よって, “我等你” という出来事が複数存在していることが分かる。そこで, “我在等你” の文に対して存在量化詞 (existential-quantifier) を用いると以下のような式を作ることができる。⁴

アル ~ガ 待ツ ~ガ ~ヲ

(1b) $\exists x$ [mt' (x) & 有' {x, 等' (我, 你)}]

アル ~ハ ~トイウ出来事ニ

これは「少なくとも一つの “x” について, “x” が “mt” でありかつその “x” は “我等你” という出来事にある」と読むことができる。以下この式について詳しく説明しよう。

ここでの “ $\exists x$ ” は「少なくとも一つの “x” についていうと」という意である。この “ $\exists x$ ” に後続する “mt' (x)” は「“x” が “mt” (様態時間) である」という意を表している。そしてこの “mt' (x)” の右側にある “有' {x, 等' (我, 你)}” という式は「“x” は “我等你” という出来事にある」という意味を示している。また, “mt' (x)” と “有' {x, 等' (我, 你)}” の間に置かれた “&” は「連言」(conjunction) を意味し, “mt' (x)” という単純命題と “有' {x, 等' (我, 你)}” という複合命題が同時に成立していることを表している。なお, “等' (我, 你)” は「僕があなたを待つ」という意味を示している。

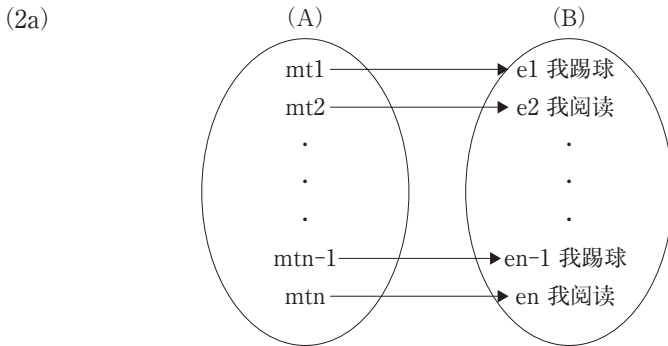
以上により “我在等你” における “在” は [複数の出来事の存在] の意味を表すことを論理的に解釈することができた。次の(2)では “我虽然一直在踢球” の “在” が問題となる箇所である。この文では “一直” と “但我从来没有放弃过阅读” という表現によって, “在” が示す [複数の出来事の存在] の意の成立をはっきりと理解することができる。

(2) 要说起这个开公司啊, 主要是因为我爱读书, 我虽然一直在踢球, 但我从来没有放弃过阅读, 再加上, 我对图书市场又比较了解,

一想, 干脆开个图书公司得了。(テレビドラマ《家有儿女》第65話)

この文の発話者は元サッカー選手である。まず“在”が生起する“我虽然一直在踢球”(僕はずっとサッカーをしてきたけど)の箇所を見ると, “一直”が生起しているのので, “我踢球”という出来事を以前から引退するまでの間において, 毎日の如く継続して行っていたことが分かる。故に概念上“我踢球”という出来事を複数存在させることが可能となる。

そこで注目すべきは, “我虽然一直在踢球”の後にある“但我从来没有放弃过阅读”(だけど僕は読書を疎かにしたことがない)の一節である。この節により, プロサッカー選手として現役時に“踢球”を行っている間においても, “阅读”を定期的に行っているということが判然とする。従って, 集合論にあてはめて考えると次のような集合を構成しえる。



(2a)の集合により, “mt”において“我踢球”という出来事が複数存在していることが理解しえる。また, “我踢球”という出来事以外に“我阅读”という出来事が存在していたことが分かるので, “我踢球”という出来事が断続的に複数存在していると思なしう。では“在踢球”の部分存在を存在量詞によって表示してみよう。

アル ~ガ スル ~ガ ~ヲ

(2b) $\exists x \{mt'(x) \& \text{有}'\{x, \text{踢}'(我, 球)\}\}$

アル ~ハ ~トイウ出来事ニ

(2b)の式は, 「少なくとも一つの“x”について, “x”が“mt”でありかつその“x”は“我踢球”という出来事にある」という意味を表している。

そして“踢”(我, 球)は「僕がサッカーをする」という意を表している。

さて次は(3)の“你在一天天的长大”における“在”を考察する。ここでは“一天天”が[複数の出来事の存在]の成立を決定づける重要な成分であると見なしうる。

(3) A: 妈妈, 我觉得我一点都不像你。

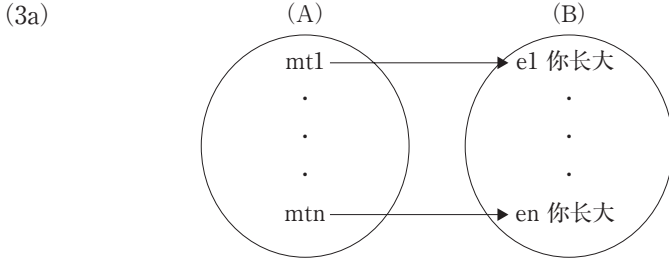
B: 美美呀, 你越来越漂亮了, 你在一天天的长大。妈妈想, 想把这件事告诉你, 你确实不是妈妈亲生的。(テレビドラマ《鉄面歌女》第30話)

(A「ママ, 私ちっともママに似ていないよ。」)

(B「美美ちゃん, どんどん綺麗になっていくわね, 日に日に成長しているわ。ママは, ママはその事を伝えたいと思うの。美美は確かにママが生んだ子供じゃないのよ。」)

この“你在一天天的长大”における“在”もやはり[複数の出来事の存在]の意を表すと理解する。その証拠は“一天天”の生起にある。なぜなら, “一天天”は「日に日に」といった意を示しているのだから, “你长大”という出来事が何度も規則的に起こっていることが保証されるからである。つまり, 発話者は(3)の場面において, “美美”がすすくと成長する過程を客観的に表現したのである。

注目に値することは, “你在一天天的长大”において動詞の役割を担う“长”は[持続]の意味特徴を有しているため, “长”単独では永遠に[持続]を維持することになる。しかし, この文では“长”の後に形容詞の“大”が結果補語として生起しているのだから, “长”は限られた[持続]となる。故に, すでに出来事が[終息]した“长大”と[複数の出来事の存在]の意を示す“在”は論理的に矛盾するように思える。が, “你在一天天的长大”には“一天天”が生起しているのだから, “长大”を複数の出来事の存在としてはっきりと捉えることができる。従って, (3)では“长大”と“在”が互いに排斥することなく共起しえると解するに到りうる。⁵では以上の見解を拠所にして“你在一天天的长大”を集合論にあてはめて考えることにしよう。



集合 (A) の要素である“mt”が一つ以上“你长大”という出来事に向かって写像されている。従って、[複数の出来事存在]の意を表わしていることが分かる。また、この集合 (A) から集合 (B) への写像は、発話者が、我が娘と見なす“美美”の健やかな成長を静止画として様態的に知覚した時点であるといえる。以上を踏まえて以下存在量化詞による解釈を行うことにしよう。(3b)を見られたい。

アル～ガ 育ツ～ガ アル～ガ ～トイウ結果ニ
 (3b) $\exists x$ [mt' (x) & 有' [x, 长' (你) & 有' {长' (你), 大|}]
 アル～ハ ～トイウ出来事ニ

これは「少なくとも一つの“x”について、“x”が“mt”でありかつその“x”は“你长大”という出来事にある」という意味を表している。そして“长' (你)”は「あなたが育つ」という意を示し、“有' {长' (你), 大|”は「それ(あなたが育つ)が大きくなる」という意を示している。

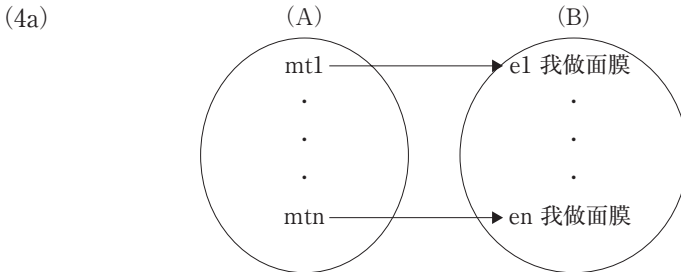
以上(1)、(2)、(3)における考察によって、“在”は[複数の出来事存在]の意を表すことが証明された。従って、“在”が生起した文の出来事は必ず複数、つまり一つ以上存在しているので、[持続の状況]の意を表す時態成分として語気助詞の“呢”を文末に付記させることができる。⁶(4)の例を見られたい。

(4) 妈，我在做面膜呢，怎么了？(テレビドラマ《宝贝妈妈宝贝女》第4話)

(お母さん、私パックしているところなの、どうしたの?)

(4)の引用先であるドラマ《宝贝妈妈宝贝女》によると、この場面は発話者がフェイスパックをしているときに母親からの電話を受けたところである。「パックをする」という行為は、通常フェイスパックを一定の間顔

に張り付けるので、概念上“我做面膜”という出来事が一定の間〔持続〕することになる。従って、発話者の概念では“我做面膜”という出来事をいくつも存在させることができると解しえる。故に“我在做面膜”は以下の(4a)のような集合を構成することができる。



この集合から“我做面膜”という出来事が複数存在していることが看取しえる。またそれと同時に、“我做面膜”という出来事が変化せずに〔持続〕しているので、“我做面膜”という出来事が〔持続の状況〕にあると解しえる。この〔持続の状況〕を明示する役割を果たすのが“呢”である。即ち“呢”は、共通の命題内容が論理的に〔持続〕している状況にあることを明示させる役割を果たしていると考えられる。よって論理的な観点からいうと、“我在做面膜”に“呢”が付記すると、複数の“我做面膜”という命題内容が「等値」(equivalence)の関係にあるということがはっきりと示されることになる。

ではこれまでに倣い“我在做面膜”も存在量化詞によって記述することにしたい。

アル ～ガ スル ～ガ ～ラ

(4b) $\exists x \{mt'(x) \& 有' \{x, 做' (我, 面膜)\}\}$

アル ～ハ ～トイウ出来事ニ

この(4b)の式が表す意味は「少なくとも一つの“x”が“mt”でありかつその“x”は“我做面膜”という出来事にある」ということである。そして“做”(我, 面膜)は「私がパックをする」という意を示している。

このように、“在”を〔複数の出来事の存在〕と、そして“呢”を〔持続の状況〕として捉えられるのは、出来事が〔持続〕しているからである。

従って、“我在做面膜呢”における動詞の“做”が有する〔持続〕の意味特徴が“在”と“呢”の成立を根底から支えていると考えるに到りえる。

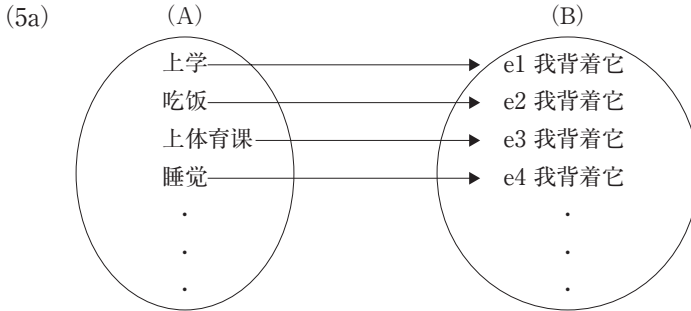
次の(5)では“我时时刻刻都在背着它”と“我上学背着，我吃饭也背着，我上体育课也背着，我睡觉也背着”の部分に注目されたい。

- (5) 妈，您不知道啊，我跟您说，比如说璐璐吧，她八十斤，我呢，一百一十斤，我要比她多背三十斤的面口袋吧，我上学背着，我吃饭也背着，我上体育课也背着，我睡觉也背着，我时时刻刻都在背着它，您说，我能不补充点儿卡路里吗？（《家有儿女4》第55話）

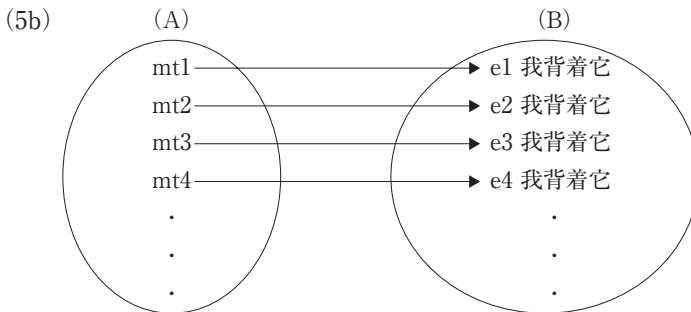
（お母さん、あのね、例えば璐璐の体重は40キロで、僕はというと55キロだから、15キロも多くの負荷を背負わなければならないんだよ。僕は登校の時に背負っていて、ご飯の時も背負っていて、体育の授業でも背負っていて、寝る時にも背負っていて、どんな時でもずっと背負っているんだ。だからカロリーを摂らないなんてことができると思う？）

この文では“我时时刻刻都在背着它”における“在”が〔複数の出来事の存在〕の意味を示すことを証明する。なお、この文の目的語である“它”は(5)の二行目にある“面口袋”を指示している。この“面口袋”は本来「小麦の袋」の意であるが、ここでは肥満気味の“小雨”の余分な体重を指示している。そこで“我时时刻刻都在背着它”の前方に生起する“我上学背着，我吃饭也背着，我上体育课也背着，我睡觉也背着”に留意されたい。これらの四つの節を見ると、全てに“我背着它”という出来事が存在していることに気づく。従って、この四つのどの出来事を観察しても、“我背着面口袋”という出来事が変化せず存在していると理解することができる。そのため、“在”の前方には“都”が範囲副詞として生起して“时时刻刻”を指示しているので、“我时时刻刻都在背着它”において“我背着它”という出来事が複数存在していると推論することが可能となる。よって、“我时时刻刻都在背着它”の“在”は、“我上学背着”，“我吃饭也背着”，“我上体育课也背着”，“我睡觉也背着”といった四つの出来事がすべて様態的に存在していることを表していると考えられる。

そこで(5)の“我时时刻刻都在背着它”は以下のように図示することができる。



そして(5a)の集合 (A) の要素を抽象化して“mt” とすると次のように表記しえる。



まず (A) の集合における要素を見ると、四つの“mt”が要素として配列されている。つまり、“上学”、“吃饭”、“上体育课”、“睡觉”である。これらはすべて、ある一つの様態的な時間点である。次に (B) を見られたい。この集合における要素は四つとも“我背着它”という出来事である。というのは“我背着它”が論理的に無限に[持続]しているからである。そして集合 (A) から集合 (B) に向かって延びる矢印は (A) から (B) への写像を示すので、様態時間“mt”から“我背着它”という出来事に写像されていることが分かる。上述したように、“在”は[複数の出来事の存在]の意を表わすので、(A) の要素が一つ以上 (B) の要素へ写像されなければならない。しかしながら、(5) の“我时时刻刻都在背着它”には“时时

刻刻”と“都”が生起しているため、すべての“*mt*”がすべての“我背着它”という出来事に対して写像、即ち全単射 (bijection) する必要がある。故に“我时时刻刻都在背着它”は全称量化詞 (universal-quantifier) を用いて以下のように解析することができる。

$$(5c) \quad \begin{array}{ccccccc} \text{アル} & \sim\text{ガ} & & \text{背負ウ} & \sim\text{ガ} & \sim\text{ヲ} & \\ \forall x \{ \text{mt}'(x) \rightarrow \text{有}'[x, \text{有}'\{\text{背}'(\text{我}, \text{它}), \text{着}\}] \} & & & & & & \\ & & \text{アル} & \sim\text{ガ} & & \sim\text{トイウ時態ニ} & \\ & & \text{アル} & \sim\text{ハ} & & \sim\text{トイウ出来事ニ} & \end{array}$$

ここでの“ $\forall x$ ”は「全ての“*x*”についていうと」の意味であり、その後続く“*mt*'(*x*)”は“*x*”が“*mt*”である」という意を示している。“ \rightarrow ”の後続く“有' [*x*, 有' {背' (我, 它), 着}]”という式は, “*x*”は“我背着它”という出来事にある」という意を表す。そして, “ \rightarrow ”は「含意」(implication) の意を表すので, “*mt*'(*x*)”が“有' [*x*, 有' {背' (我, 它), 着}]”を「含意」していることを意味している。

故に, (5c)の式全体は, 「すべての“*x*”に対して, その“*x*”が“*mt*”であるならばその“*x*”は“我背着它”という出来事にある」という意を表していると理解できる。また“背' (我, 它)”は「僕がこれを背負う」という意味を, “有' {背' (我, 它), 着}”は「僕がこれを背負うが, [動作の結果の持続] という時態にある」という意を示している。

注目すべきは, このように“在”が[複数の出来事の存在]の意を表現しえるのは, 概念上出来事が量化してはならない, ということである。言い換えると, “我背着它”という出来事は[終息]することなく[持続]しているのである。そのため“背着”は重要な役割を果たしている。ここでの“背”という動詞は論理的な角度からいうと, 一度背負うとその動作は[終息]するため, 背負うという動作がそれ以上[持続]することがない。しかし, 背負った後の結果は[持続]することができるので, [動作の結果の持続]の意を表す時態助詞の“着”を伴って, “小雨”が太って体に贅肉がついた後の結果を[持続]させることができる。従って, このように“背着”が[持続]の出来事を形成することによって, いくつもの“我背着它”を観察することが可能となり, “背着”が“在”の[複数の出来事の存在]の意を生じさせるための重要な基礎を造っていると見なしえる。

さて, 次章では“正”が[複数の出来事の包括]の意を表し, かつ“正”

の文は一律に全称量化詞によって解析できることを証明したい。

2. “正”の解析

本章では“正”は[複数の出来事の包括]の意を示すことを明らかにする。重要な点は，“正”が生起するための前提条件は，出来事が複数存在していなければならないということである。そこで，本稿と関連すると思われる“正”の用法を他の研究者の記述の中から取り出して，以下の如く簡潔に図示することにした。

表二 [八名の研究者による副詞“正”の解釈]

研究者	“正”の解釈
1. 北京大学中文系 1955・1957 级语言办编 (1982: 634)	動作や状態が進行している，或いは存在し続けていることを表す。
2. 龚千炎 (1995: 93)	動作の進行，或いは状態が続いているといった意味を表す。
3. 王还編 (1997: 1137)	動作が進行中，或いは状態が存在し続けていることを表す。
4. 侯学超編 (1998: 741)	動作が進行中，或いは状態が持続中であることを表わす
5. 吕叔湘編 (1999: 670)	動作が進行中，或いは状態が持続中であることを表わす
6. 李科第 (2001: 666)	動作行為がちょうど進行中，或いは持続の状態にあるということを表わす。
7. 张斌編 (2001: 716)	動作，或いは状態が持続中であることを表わす。
8. 朱景松編 (2007: 549)	動作が進行している，或いは状態が続いていることを表わす。

上の表二が示すように“正”は[持続]や[進行]といった表現を用いて解釈されている。その内，五名の研究者が[持続中]，又は[進行中]といった記述をしている。これは本研究で“正”を[複数の出来事の包括]

と解釈するための助けとなる。つまり本稿では“正”は〔複数の出来事の包括〕の意を表すと主張するが、この〔複数の出来事の包括〕の「包括」は、他の研究者が言う「持続中」や「進行中」の「中」に等しいと考えるのである。というのは、“正”は、動態的な出来事ではなく、複数の静態的な出来事の集合をすべて捉えた概念であると見なすためである。では、以下実例を挙げて“正”が果たす意味役割を明らかにさせよう。用例は(6)から(12)までの七つである。まず(6)の文について考えたい。

- (6) 别问我谁, 也别问我怎么知道你的电话号码的。快来鸿福酒楼, 白一鸣正和一个女人约会呢。(テレビドラマ《鉄面歌女》第17話)

(俺が誰かを聞く必要はない。またどうしてお前の電話番号を知っているかもな。すぐ鴻福酒楼に来るんだ。白一鸣はちょうど女と遊んでいるぞ。)

この文は何者かが“白一鸣”の婦人に電話をかけて、夫の浮気を密告した場面である。従って、“白一鸣和一个女人约会”という出来事に“正”を用いることにより“白一鸣和一个女人约会”という出来事がちょうど行われていることをはっきりと認識することができる。つまり“正”を用いて、概念上、複数の“白一鸣和一个女人约会”という〔持続〕の出来事をすべて包括し、禁断なる浮気の行為を際立たせて表現したといえる。そこで“正”の生起を支えるには、“白一鸣正和一个女人约会呢”における動詞の“约会”が、論理上、際限なく〔持続〕する必要があることに気づく。

またこの“白一鸣正和一个女人约会呢”の文は〔持続の状況〕の意を表す“呢”が生起しているので、(6)の“我在做面膜呢”の考察で言及したように、複数の出来事が「等値」の関係、つまり複数の“白一鸣和一个女人约会”という命題内容が変化することなく〔持続〕している状況にある、ということが分かる。故に、“白一鸣正和一个女人约会呢”は以下のように図示することができる。

という対象を持つ」という意を示す。更に、“和’[白一鳴, 女人, 有’{约会’(白一鳴), 女人}&有’{约会’(女人), 白一鳴}]”は「白一鳴が、女と、白一鳴が女とデートをしかつ女が白一鳴とデートをするという状態にある」という意を表している。

この“正”の解釈で重要なことは、“正”は〔持続〕の一点を捉えるのではなく、〔持続〕の全体を捉える、ということである。従って“正”が生起する文は、発話時間の前後の時間において複数の出来事が行われていることを許容する“最近”を用いて、

(6c) 我最近啊, 正准备换个房子, 可是还没找到。”(テレビドラマ《等待绽放》第2話)

(おれ最近さ, ちょうど部屋を換える準備をしているんだけど, まだ引っ越し先が見つからないんだ。)

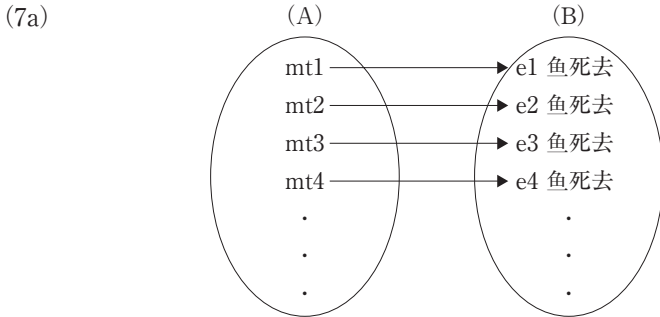
といった文を造ることができる。ドラマ《等待绽放》によると、この場面は、発話者が電話をしているところであり、“准备换个房子”という出来事が具体的に行われていない。故に、“准备换个房子”は“最近”の間において何度も行っていると考えることができる。この(6c)の例からも、“正”が〔持続〕の一点ではなく、複数の出来事を包括するといった解釈が妥当であると見なしうる。

また、瞬間動詞でも、出来事が複数である際には“正”を用いることができる。袁莉容等(2010:168)は動作が反復したり、或いは、動作主が集団である場合、瞬間動詞が生起する文でも“正”を生起させることができるとした。そこで袁莉容(2010:168)が用いた例の一つ引用しよう。

(7) 池塘里的鱼正一条条地死去。

(池の魚が正に一匹一匹と死んでいる。)

この文における“死去”は瞬間的な意味特徴を有する動詞である。しかし“一条条”の生起により“鱼”が複数存在することになるので、“鱼死去”という出来事は複数である。従って、〔複数の出来事の包括〕の意を示す“正”を用いて、概念上“鱼死去”という出来事を様態的にすべて一纏めにして捉えることができる。そのため“池塘里的鱼正一条条地死去”は以下のように図示することができる。



この図から複数の“魚”が“死去”をすることで、“魚死去”という出来事が複数に及んでいることが分かる。従って“正”の生起は、この複数の出来事をすべて包括したことを意味すると見なしうる。では続けて全称量化詞による解析も行おう。

$$(7b) \quad \text{アル} \sim \text{ガ} \quad \text{死ヌ} \sim \text{ガ}$$

$$\forall x \{ \text{mt}'(x) \rightarrow \text{有}' \{x, \text{死去}'(\text{魚})\} \}$$

$$\text{アル} \sim \text{ハ} \quad \sim \text{トイウ出来事ニ}$$

この(7b)の式は「すべての“x”に対して、その“x”が“mt”であるならばその“x”は“魚死去”という出来事にある」と読むことができる。“死去’(魚)”という命題は「魚が死ぬ」という意味である。以上の考察から“正”は「複数の出来事の包括」の意を示していることが分かった。

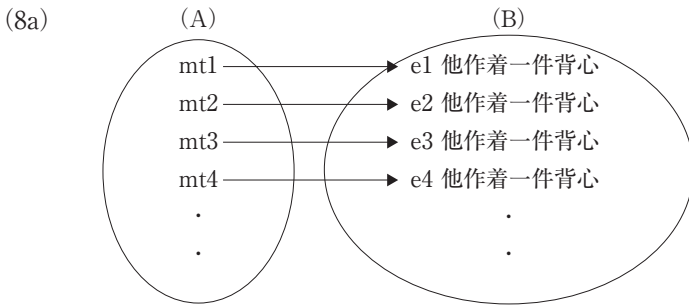
さて今度は限られた[持続]の中の出来事すべてが“正”によって包括されている例について検討しよう。(8)の例を見られたい。

(8) 現在、他正作着一件背心、戏台上丫环所穿的那种。(小説《新编老舍文集-第二卷·兔》400)

(今、彼はちょうどチョッキを一着作っているところだ。それは劇で召使いの娘が着るようなやつである。)

ここでは“他正作着一件背心”における“正”について詳述する。ここでの“正”の運用は“他作着一件背心”という出来事をすべて包括する操作を行ったと考える。このような操作を行うためには、“他作着一件背心”という出来事が[持続]してなければならない。そしてこの“他作着一件背心”の[持続]を成立させるためには、“作”の後方に[持続]の意を表す時態成分の“着”が後続していることがポイントとなる。なぜなら、

持続動詞の“作”は数量詞の“一件”と結合すると、“作”の動作は量化されて必ず[終息]する動作となってしまう。だが、チョッキー着分(“一件背心”)を造り終えるまでの間は“作一件”は[持続]しえるので、時態助詞の“着”を用いて、“他作一件背心”という出来事を一定の間確実に[持続]させることができる。よって、概念上“他作着一件背心”という出来事を複数抽出することが可能となり、“正”を用いて一定の間[持続]し続ける“他作着一件背心”という出来事をすべて包括することができるのである。そこで、“他正作着一件背心”を以下の(8a)のように図示してみることにしたい。この(8a)における写像の操作も、(6a)や(7a)と同様に全ての“mt”が全ての出来事に一つずつ単射されて、全単射となっていることが看取できる。



この集合(A)の要素はいずれも“mt”だが、これらは全て“現在”に置き換えて図示することができる。つまりここでの“現在”は発話時間の一点ではなく、発話前後の一定の時間を含んでいると考えられる。⁷そこで全称量化詞による分析は以下ようになる。

$$\begin{array}{l}
 \text{アル} \sim \text{ガ} \qquad \qquad \qquad \text{作ル} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ} \\
 (8b) \quad \forall x \text{ [mt' (x) } \rightarrow \text{有' [x, 有' [有' 作' (他, 背心), 一件], 着]]} \\
 \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \text{アル} \quad \sim \text{ガ} \quad \sim \text{トイウ量ニ} \\
 \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \text{アル} \quad \sim \text{ガ} \quad \sim \text{トイウ時態ニ} \\
 \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \text{アル} \sim \text{ハ} \qquad \qquad \sim \text{トイウ出来事ニ}
 \end{array}$$

これは「すべての“x”に対して、その“x”が“mt”であるならばその“x”は“他作着一件背心”という出来事にある」と読むことができる。“作

(他,背心)”は「彼がチョッキを作る」の意を,“有’{作’(他,背心),一件}”は「彼がチョッキを作るが,一着という量にある」の意を,そして“有’[有’{作’(他,背心),一件},着]”が「彼がチョッキを一着作るが,[動作の結果の持続]という時態にある」といった意味を表している。

今度は心理活動動詞の“想”によって構成された出来事が“正”によってすべて包括される例を挙げる。論点となる箇所は(9)の一行目の“我现在就给四姐打电话”と七行目の“我正想给你打电话呢”である。

(9) A: 行,我现在就给四姐打电话!让四姐听听你们都说她什么。

B: 不是,你给素晓打电话也没有用啊,素晓自个儿就占百分之二十这事本来就不对啊,再说了,那素晓都嫁人了,本来都不姓赵了,她还有工作,还在咱们店里持股,真是!你还给人打电话,小算盘把你都算进去了。真是!

C: 哥,说谁呢?我这耳根子怎么那么热呀。

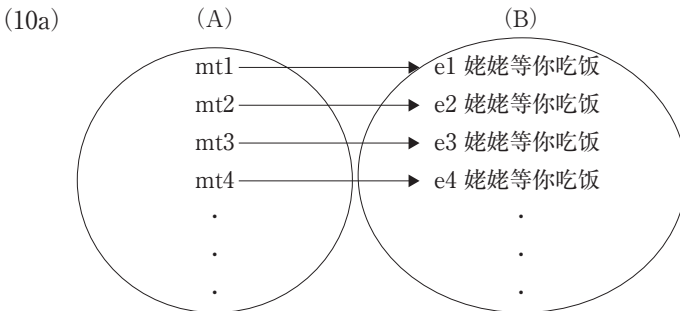
A: 四姐,你来得正好,我正想给你打电话呢。我哥跟我嫂子不但背地里说你,还挑拨咱们之间关系!(テレビドラマ《傻春》第24話)

この(9)の例では“我正想给你打电话呢”(私はちょうどあなたに電話をしようと思っていたの)の一節における“正”が[複数の出来事の包括]の意を表していると解釈する。ここでの“正”が[複数の出来事の包括]の意として成立しえるのは“我想给你打电话呢”という出来事が[持続]を保持しているからである。そしてこの出来事が[持続]を保持しえるのは,まず,心理活動動詞の“想”が[持続]の意味特徴を有しているためである。そのため“我正想给你打电话呢”には末尾に[持続の状況]の意を示す“呢”が生起している。ここの“我正想给你打电话呢”の[持続]性は(9)の用例を深く観察することではっきりと読み取れる。再度(9)の一行目を見られたい。ここには“我现在就给四姐打电话”(私は今すぐ姉に電話をするわ)が生起しており,発話者Aが“四姐”に電話をかけようとする意向を知ることができる。そしてこの「姉に電話をしたい」という願望は(9)の七行目の“我正想给你打电话呢”を発話するまでの間において変化することなく[持続]していると文脈上推測することが可能である。故に“我正想给你打电话呢”は集合論を用いると下記の如く示しえる。

さて今度は(10)の考察へ移行する。ここでは“姥姥正等你吃饭呢”（おばちゃんがちょうどあなたが食事をとるのを待っている）が主たる考察対象である。

- (10) 你怎么还不走啊！爸爸，那个，姥姥饭都做好了，正等你吃早饭呢。然后我帮你把这个垃圾扔了吧，我正好要去上班呢，你快上去吧，姥姥正等你吃饭呢！（テレビドラマ《宝贝妈妈宝贝女》第7話）

(10)の例の引用先であるドラマ《宝贝妈妈宝贝女》によると、この場面は三人の人物が登場する。それは父、娘、青年である。そして発話者は娘であり、この娘は父親の二女という設定となっている。ここでは発話者である二女が、自分の父親を家に戻らせるように努めているところである。というのは、早朝、発話者の友人である青年が花束を抱えて自宅の前へ現れたからである。以前は三女と交際をしていたはずのこの青年は、近頃、発話者である二女に接近し始めたのである。そこで発話者の二女は頑固な父とキザな青年との激しい衝突を恐れ、(10)のようなセリフを言うに到ったのである。このような場面では、“等你吃饭”という出来事がいかに大切であるのかを父親に伝え、喧嘩の勃発前に父に口実を与えて家に戻らせる必要が大いにあるので、“正”の運用が最適であるといえる。つまり、[複数の出来事の包括]の意味を表す“正”を用いて、幾つもの“姥姥等你吃饭”を包括し、その出来事のタイムリー性を突出させているのである。故に“姥姥正等你吃饭呢”を集合論によって表現すると次のように記すことができる。

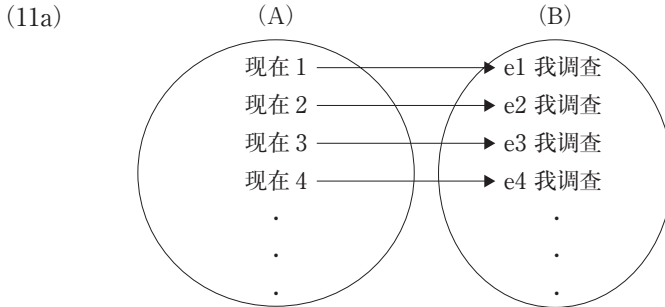


担っているので、“我在調査”がすべて包括されることになる。

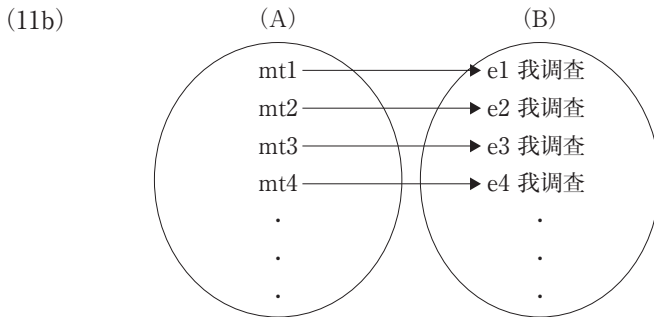
もう一つ言及しておきたいことは、(11)では副詞の“正在”を“正”と“在”の二つに分けて分析した所以である。このような見解に到ったのは、Chao (1968 [2011] : 787-788) の記述が拠所となっている。Chaoは意味特徴と音節を意識して時間副詞を三つに区分した。つまり、一つは、単音節の時間副詞である。いま一つは、二音節の時間副詞である。そして三つ目は、二音節であるが、意味上二つの副詞に分けて解釈すべき時間副詞である。“正在”は第三のタイプに分類されている。従って、Chaoの記述は、“正在”を“正”と“在”に分けて分析する必要性を示唆していると思われる。また、Chao (1968 [2011] : 788) によると、“正在”が表す意味は ‘just at ……-ing’ である。故に“正”は“just”の意として「出来事がちょうどである」ということを示し、“在”は副詞ではあるものの“at”の意として「出来事の場合を導く」という役割を果たし、そして“ing”は「出来事の持続」といった意味を表す、と考えることができる。これは、Chao (1968 [2011] : 787) では“正……呐”を、「just……ing」と解釈している点からも妥当な推論であるといえよう。以上により、“正在”は「ちょうど～が、～において、～している」という文型意味を構築しているといえる。以上が本研究で“正在”を“正”と“在”に分離して解釈した所以である。

では、再び“我正在調査”の文に視点を戻そう。“在”は、Chao (1968 [2011] : 788) が“at”と解釈したように出来事の場合を導く役割を果たすと考えられる。しかしながら、“我正在調査”における“我調査”という出来事はどこで行われているのかが判然としない。というのは、“調査”は通常様々な手段を持って行う行為なので、その出来事地点は複数に及び、一か所に定めることは困難であると考えられるからである。よって、この文における“在”の目的語は省略されたと考える。

さて以上の考察を踏まえて“我現在正在調査”を次のような図によって示すことにしよう。



この図から“現在”において“我調査”という出来事が複数存在し、かつその“我調査”は全ての“現在”において生じているということが分かる。従って、(11a)の“現在”を抽象的に記すと(11b)のようになる。



では次に“我現在正在調査”を全称量化詞で表現しよう。

アル ～ガ スル ～ガ

(11c) $\forall x$ [mt' (x) \rightarrow 有' {x, 調査' (我)}]

アル ～ハ ～トイウ出来事ニ

この式は「すべての“x”に対して、その“x”が“mt”であるならば、その“x”は“我調査”という出来事にある」という意を表している。ここでの“調査'(我)”は「私が調査する」という意味を表している。

次は(12)の“正在等着呢”(ちょうどあそこで待ち続けております)における“正”と“在”について検討しよう。これが本稿最後の用例である。

(12) A：少爷回来了，少爷，有位姓陈的先生等您半天了。

B：陈先生，什么事？

A：说是曾家有一箱刻了字的骨头在他那儿，听说您用得上，所以带过来看看，换点钱花花。

B：哈哈，真是踏破铁鞋无觅处啊！人呢？

A：正在等着呢！（テレビドラマ《京华烟云》第42話）

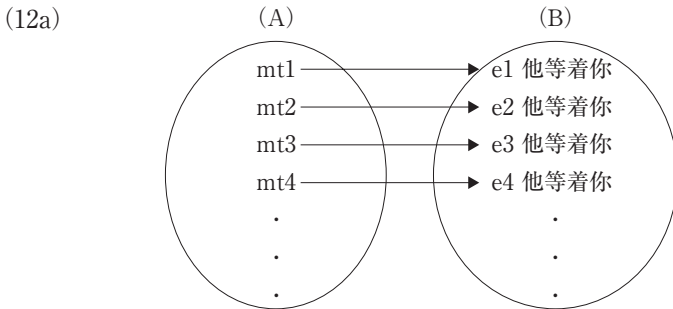
まず“正在等着呢”の“等”という動詞に暗示されている“你”を加えた成分に視点を向けよう。ここでの“等”は論理的な観点からいうと、[持続]の意味特徴を有しているが、“等你”では“你”が“等”の対象格で時相を表示するので、[動作の結果の持続]の意を示す時態助詞の“着”を後続させて“等你”の[動作の結果の持続]を明示することができる。よって“等着你”は[動作の結果の持続]の出来事を構成するので、更に[複数の出来事存在]の意を表す“在”を用いることができる。これにより、意味上“他等着你”という出来事が複数存在すると考えられる。

また、(11)の“我现在正在调查”とは異なり、この“正在等着呢”は場所の概念がはっきりと存在していると考えられる。これは(12)の引用元であるドラマ《京华烟云》を確認すると、そのシーンにおいて実際に発話者のやや遠方で“他在等着你”という出来事が行われていることが容易に看取しえる。しかも発話者Aは、“正在等着呢”と発話する際に、その出来事が行われている場所に向かって指をさしている。従って、ここでの“在”は統語上副詞ではあるものの、依然として前置詞の機能を有し、出来事の場所を導く役割を果たしていると見なすと、“在”は「～が、～において、～という状態にある」という文型意味を構築すると考えられる。よって、“他在等着”は「彼が、あそこにおいて、彼があなたを待ち続けている」という意を表すと解釈できる。これにより、前述のChao (1968 [2011]: 788) が“在”を“at”と解釈した所以を理解することができる。

さて、これで“在等着”までの構成プロセスを理解することができた。上述の如く、この“在等着”という出来事は複数存在していると考えられるので、これらの出来事をすべて包括することができる。即ち、[複数の出来事の包括]の意を表す“正”を用いるのである。これによって、発話時において意味上“他等着你”という複数の出来事がすべて抽出されるので、この“他在等着你”という出来事がとてもタイムリーであり、かつ発話者の期待に満ちた喜ばしげな心情を察しえる。というのは、《京华烟

云》によると、発話者Bは日本軍の下、甲骨文字を収集していたのである。しかしながら甲骨文字は貴重な文物であるが故、その収集に多大な費用を費やしていたことは言うまでもない。そんな時、(12)の発話者Bが帰宅して家の前まで歩を進めると、門番として待機する使用人の発話者Aから、甲骨文字を携えてきた客がいる、という朗報を耳にするのである。

また、上述したように、門番を務める発話者Aが“正在等着呢”と発話する時に、わざわざジェスチャーをしてその“等”という行為をしている“他”を指し示したのは、門番である発話者Aが、帰宅したばかりの発話者Bである主人はきっと“他在等着你”という出来事がどこで生じているのかが分からないであろう、と判断したためである。これは(12)の五行目にある“人呢？”(そいつはどこにいるんだ)という表現からも、発話者Aの主人が“他在等着你”という出来事がどこで生じているのかを把握していないことが理解しえる。従って、このような場面では“在”と“正”を共起させた表現が最も適切であると見なしうる。そして、“正在等着呢”には“呢”が文末に生起しており、“正在等着”が[持続の状況]にあることを明示している。故に“正在等着呢”を集合論によって表現すると以下のようになる。



この図は、“在”の意味役割によって“他等着你”という出来事が一つ以上存在し、かつ“正”の意味役割により“他在等着你”という出来事がすべて包括されていることを示している。よって、“在”と“正”は明らかに異なった意味役割を有し、両成分は論理的に矛盾することなく共起していることが理解できる。では最後にこの“正在等着呢”を全称量化詞で記述

することにしたい。

$$(12b) \quad \forall x \text{ [mt' (x) } \rightarrow \text{有' [x, 有' \{等' (他, 你), 着\}]]}$$

$$\begin{array}{l} \text{アル} \sim \text{ガ} \qquad \qquad \qquad \text{待ツ} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ} \\ \text{アル} \quad \sim \text{ガ} \quad \sim \text{トイウ時態ニ} \\ \text{アル} \quad \sim \text{ハ} \quad \sim \text{トイウ出来事ニ} \end{array}$$

これは「すべての“x”に対して、その“x”が“mt”であるならば、その“x”は“他等着你”という出来事にある」と読むことができる。“等’（他，你）”が「彼があなたを待つ」という意味を表し，“有’ {等’（他，你），着}”が「彼があなたを待つが，[動作の結果の持続]という時態にある」という意を示している。

3. 結びにかえて

本研究は論理的な観点から時態副詞の“在”と“正”が表す意味役割を提示し、両成分の差異を明らかにした。即ち，“在”は[複数の出来事の存在]の意味を，“正”は[複数の出来事の包括]の意を示すということが分かった。

そして“在”が表す[複数の出来事の存在]の意は存在量化詞によって、一方“正”の[複数の出来事の包括]の意は全称量化詞によって解析できるということを証明し、これによって“在”と“正”の意味役割の違いを論理的に明示した。

注釈

- 1 本稿では副詞の“在”と“正”を時態副詞と見なす。龚千炎（1995：44）は「時態とは出来事のある段階における特定の状態を表わす。」と述べており、時間副詞の“在”と“正”を時態成分として扱っている（1995：89）。また、马真（2004：160）や张谊生（2004：176）も時間副詞の“在”、“正”は時態成分の役割を果たせると主張し、その根拠として“在”と“正”は[過去]、[未来]、[現在]のいずれの時制においても生起する可能性を持つと見なした。なお，“在”と“正”がこれまでどのように解釈されていたのかについては、本稿の第一章と第二章で言及する。
- 2 “在”が示す[進行]を[複数の出来事の存在]と見なした所以についての詳細は青木（2013a）、（2013b）を参照されたい。
- 3 本稿の用例に対する日本語訳は全て筆者が行ったものである。
- 4 論理式における括弧は“()”，“{ }”，“[]”，“【 】”の四つを使用する。そして“()”が最も作用域（scope）が狭く，“【 】”が最も作用域が広くと仮定する。即

ち下記の (a) のように考える。

(a) () < { } < [] < 【 】

この図は,“())”は“{ }”より作用域が狭く,“{ }”は“[]”より作用域が狭く,“[]”は“【 】”より作用域が狭いことを表している。また,存在量化詞と全称量化詞の作用域は一律に“[]”を用いて表すことにする。

- 5 ここでの見解は龚千炎(1995:27)の注釈を参照した。即ち,龚千炎は[進行]の意を示す“在”についての論考で,多くの同類の個体が,絶えず同じ動作行為をしたり,変化している場合,“在”を用いることができる,といった見解を述べている。
- 6 “呢”を[持続の状況]と解釈したのは朱德熙(1982:209)の見解に基づいた。
- 7 “现在”は《现代汉语词典·第6版》(2012:1416)によると,この時,発話の時を指すが,時に,発話前後の一定の時間を含むといった意を表す。と記載されている。

参考文献

- 青木萌2013a.「現代中国語の統語成分“在”の用法と意味」,『神奈川大学言語研究2013』。神奈川大学言語研究センター。
- 2013b.「時態成分“在”の時制構造における意味と論理」,『人文研究180号』。神奈川大学人文学会。
- 2013c.「時態成分“在”の生成過程」,『人文研究181号』。神奈川大学人文学会。
- 杉村博文1994.『中国語文法教室』。東京:大修館書店。
- オールワード・アンデソン・ダール著,公平珠躬・野家啓一訳1979.『日常言語の論理学』。東京:産業図書。
- 北京大学中文系1955・1957级语言班編1982.『现代汉语虚词例释』。北京:商务印书馆。
- 龚千炎1995.『汉语的时相时制时态』。北京:商务印书馆。
- 侯学超編1998.『现代汉语虚词词典』。北京:北京大学出版社。
- 李科第2001.『汉语虚词词典』。云南:云南出版社。
- 刘月华等2001.『实用现代汉语语法·增订本』。北京:商务印书馆。
- 卢福波2010.『汉语语法教学理论与方法』。北京:北京大学出版社。
- 吕叔湘編1999.『现代汉语八百次·增订本』。北京:商务印书馆。
- 潘文娱1980.「谈谈“正”“在”和“正在”」,『语言教学与研究』1980年第1期。
- 王还編1997.『汉英双解词典』。北京:北京语言大学出版社。
- 袁莉容等2010.『现代汉语句子的时间语义范畴研究』。四川:四川大学出版社。
- 张斌編2001.『现代汉语虚词词典』。北京:商务印书馆。
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室編2012.『现代汉语词典·第六版』。北京:商务印书馆。
- 朱德熙1982.『语法讲义』。北京:商务印书馆。
- 朱景松編2007.『现代汉语虚词词典』。北京:语文出版社。
- Chao,Yuanren.1968 [2011]. *A Grammar of Spoken Chinese*. 商务印书馆。

Chao, Yuanren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. University of California Press.

用例参考文献

老舍2009.『新编老舍文集-第二卷』。北京：商务印书馆国际有限公司。